

第3回 二宮町地域公共交通活性化協議会議事要旨

開催日時	平成24年2月21日（火） 14:00～15:15	
開催場所	二宮町役場 2階第1会議室	
主席者	委員	出席17名（うち代理出席2名）、欠席3名
	その他	随行4名、傍聴6名
	事務局	政策部4名、都市経済部3名、健康福祉部2名、コンサルタント2名
会議次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 議題 (1) 地域公共交通計画における目標・基本方針の決定について (2) 来年度のスケジュールについて (3) その他 4. 閉会	

協議会委員出席名簿

No	氏名	所属	出欠	備考
1	宮戸 健次	二宮町	出席	
2	三木 健明	神奈川中央交通株式会社	出席	随行（露木 輝久）
3	杉山 勝	相模中央交通株式会社	出席	
4	山崎 利通	社団法人神奈川県バス協会	出席	
5	亀井 茂	社団法人神奈川県タクシー協会	出席	
6	露木 孝夫	二宮町地区長連絡協議会	出席	
7	遠藤 光夫	二宮町老人クラブ連合会	出席	
8	浦中 勝己	二宮町PTA連絡協議会	欠席	
9	神保 順子	二宮町議会議員	出席	
10	高見 利和	一般公募	欠席	
11	依田 久司	一般公募	出席	
12	櫻井 浩志	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局	出席	随行（秋田 丈仁）
13	能登 一盛	神奈川県交通運輸産業労働組合協議会	欠席	
14	志村 知昭	神奈川県平塚土木事務所	出席	代理（久保 暁俊）
15	三枝 薫	神奈川県県土整備局	出席	代理（久保田 貢）
16	渡辺 康司	二宮町都市経済部	出席	
17	青木 勉	神奈川県大磯警察署	出席	
18	伊藤 喜彦	JR東日本旅客鉄道株式会社	出席	
19	大森 宣暁	東京大学大学院工学系研究科	出席	
20	佐川 眞一	二宮町健康福祉部	出席	

【議事概要】

1 開会

2 あいさつ

宮戸副町長よりあいさつ

3 議事

- ・本日の会議の公開の確認（全員異議なし）
- ・傍聴者6名
- ・地域公共交通計画における目標・基本方針の承認（全員異議なし）

【質疑応答、意見等】（※◎は会長、○は委員、●は事務局の発言）

・事務局より「議題（1）地域公共交通計画における目標・基本方針の決定」について「資料1」、「参考2」、「参考3」を説明

○ P22の修正された表現について「65歳の高齢者等で福祉サービスを受ける資格はないが、移動が困難な人達は公共交通で対応していく」ということがもっとはっきりとわかるような表現に変えた方がよい。

● ご指摘の趣旨で修正したつもりであるが、表現を工夫することで対応したい。

○ P19方針⑤について、ページの上段の修正された文章には「行政、事業者、住民その他の関係者が連携及び協働して」と書かれているが、方針⑤にもこの内容を含めて「地域で支える協働による『コミュニティ交通』の仕組みづくり」といった表現にした方がよいと思う。

● 方針⑤についても、「協働して」というような表現を加えて修正する。

○ 方針⑤に関連して、この方針にある地元の方が連携・協力した地域公共交通の仕組みづくりと、地元協賛や既存タクシーの有効活用といった内容は問題ないが、下から2行目の地域ボランティア等による相互扶助の移送サービスという文章と「参考1」で紹介されている施策の例の4や6にある無償運送の事例については、公共交通を検討するこの会議で基本方針として出す内容ではないと思う。

地域の無償運送というものを、まったく否定するつもりではないし、また、そういったものを裏から自治体が支援している例もあるとは思いますが、公共交通を検討するこの会議で無償運送を方針とする施策と誤解されるような表現は避けた方がよい。

◎ 具体的には、どこをどのように修正すればよいか。

○ 具体的には、方針⑤の地元企業以下を、「地元企業、商店街、集客施設等の協賛、公共交通事業の協力による既存タクシー、バスの有効活用方法などについて、地域が主体となった『コミュニティ交通』の導入とその仕組みづくりを検討する。」といった内容にして、無償運送を町の施策とするような表現は避けた方がよいと思う。

● 計画の中で、そのような表現は避けた方がよいということであれば、変えていきたい。

自家用車でできる有償運送としては、「福祉有償運送」と「過疎地有償運送」で、NPO等が無償で運行するようなものはあまり好ましくないという理解でよいか。

- 公共交通として捉えるかどうかであると思う。
- 無償運送は、道路運送法上許認可の必要がないので、お金をまったくとらないで、ボランティアでやっている分には問題がないのだが、最近の事例でそのあたりがグレーの状況でやられているものもあるので、行政側としてはその点を懸念している。いろいろ検討した中で、皆さんの発意や、ボランティアによる無償でやろうという動きが出てくることについて否定するつもりはまったくないが、初めからそういった方向に動いてしまうような方針になってしまうのはよくないと思う。
- もう少し具体的に言うと、グレーでやっている部分で、無償でやっていると言いながら、お金をとっているようなことが起きる可能性が高まることがよろしくない。
- そのようなところを十分に留意してやっていただく分には、このような形態があってもよいと思う。
- 無償運送は、既存の公共交通事業者の圧迫にもつながる恐れがあるので、それをあまりやっていってしまうことには、問題があると思う。
- NPOで福祉有償運送をやっている。内容的にはボランティアのようなものであり、前回でも同じ発言をしたが、やはり本来であれば公共交通事業者にやっていただきたいと考えている。現状では公共交通だけでは、利用者のニーズに応えきれていないので、永続的、持続的なことを考えるとやはり公共交通でカバーしてほしいという思いがある。現状での役割としての必要性は十分にあると思うが、基本方針として位置付けるのは、法律的な解釈だけでなく、制度的にも少し問題があるのかと思う。
- 本来は民間事業者にやっていただくことがよいと思うし、無償運送が民業圧迫につながる恐れがあるというのも理解できるが、やはり現状で対応しきれていないということにおいても、法律的に無償運送を公共交通とすることは芳しくないということになるのか。
- 法律論で、このようなものは公共交通に入れてはいけないとか、そういった定義があるわけではない。
- あくまでも民間事業者主体となるが、地域での無償運送もサポート的にやっていくということであれば、基本方針の中にあってもよいと思う。
- この施策の例の中で紹介しているものも、すべてが無償運送ではなく、有償のものも載せている。まずは民間の交通事業者が行えるものから検討していくが、色々検討していく中で、どうしても必要になった場合には、地域が行う無償運送も検討するという認識に立ち文章表現を修正するということがよいか。
- 基本方針の中で最初から無償運送という選択肢を入れてしまうと、なんとなく無償の方がよいのではないかということで、そちらに流されてしまう。そして、それが町の施策になってしまうことを懸念しているのだと思う。まずは民間の交通事業者が有償で行う公共交通について、ある程度議論をして、議論をしつくし最後に行き着くところが無くなってから議論すべきものではないかと思う。県内にも無償運送の事例が増えてきており、最初は無償で行政もお金を出さずに地域がボランティアでやるといって始められたが、ボランティアだけでは人手不足等の都合により、運行できない日が出る等、行き詰ってきている事例もある。

また、ボランティアのなり手がいないので、チップのような形で募金箱のようなものが設置され、道路運送法上のグレー部分となってしまう事例が県内でも散見してきている。

このような状況が進むと、ある日有償の路線バスが走っているところに無償運送と称して違うバスが走るような事態も招きかねない。その行き着く先として、既存のバスやタクシーが衰退してしまうようなことにならないためにも、まずは、有償運送でやっていける様々なことを考えて、どうしても手の届かないところについて、初めてそこで議論の中に出てくるものではないかと思う。

◎ そういうことであれば、留意した表現に修正する必要があると思う。

● 方針⑤の文章を修正する。

○ P20の利用者ニーズ等への対応というのは、具体的にどのように利用者のニーズを把握するのか。アンケートからも色々と読み取れると思うが、次年度も行うのか。

● 作業の流れとしては、まず基本方針を定めた後に、具体的な話をしていくことになると思う。利用者ニーズの把握については、基本的には今年度実施したアンケートの結果から地域のニーズを探っていくが、具体的にどこの地域で進めていくかが決まった段階で、地域に入って懇談会等を行い、より詳細なニーズを把握する作業を来年度から行う予定である。

◎ その他、意見がなければ、本日の指摘事項を修正していただいたものを基本方針とする。

● この基本方針は、あくまでも全体の計画の中の一部のものなので、これで最終決定するものではない。次年度からの具体的な施策の協議を進めていくための方針の決定というご理解でお願いしたい。

・事務局より「議題（2）来年度のスケジュール」について「資料2」を説明

○ 第1回の時のスケジュールでは、来年度6月、7月に住民ワークショップが予定されていたが、それは無くなってしまったのか。

● 補助金の活用を見据えて、補助の対象となるような施策の具体的な検討を行うために、交通施策を導入していくべきとする地域が絞れた段階で、その地域に入って懇談会を実施したいと考えている。当初予定していたワークショップと並行しての実施は難しいので、その代わりとして地域での懇談会を開催することとさせていただいた。

○ 懇談会であっても、場合によってはワークショップ形式でもよいのか。

● それは問題ない。地域での懇談会は説明会形式にしたいと考えているわけではない。全町的な交通課題等について意見交換を行ったワークショップに対し、懇談会では、地域内における具体的な課題やニーズの詳細等について、町民の方々と意見を交わしていきたいと考えている。

・事務局より「議題（3）その他」について具体的な施策を検討するにあたっての方向性として「参考1」を説明

- 次年度以降の作業をするにあたり、各地区における検討内容に関する方向性の確認や優先的に取り組むべき地区をどこにするか等について、皆さまの意見を伺いたい。

「参考1」に示した施策の例以外にも「災害時の公共交通」や「町の公共施設の利用促進」、「観光」などの視点についても盛り込めればと思うが、限られた財政状況の中での実現となるので、「優先度」、「重要度」の高い直近の課題の解消からまずは取り組んでいきたい。

特に路線バスの再編等、既存の公共交通の活用により解消できる課題があれば、まずはその方向から検討していききたいと考えている。そのあたりについて日頃から町の公共交通を担っていただいている交通事業者の皆さまからの意見を伺っておきたい。

- 二宮町では、大型バスが走ることができる道が限られている。路線は基本的に二宮駅とを結んでいる。自家用車が増えて、バスの採算性としては、非常に厳しい路線ばかりであるのが現状だが、高齢化社会や環境等のことも考えてなんとかしていこうというのが、この会議の趣旨であると思う。ルートの見直しの検討についても、既存路線を活かしながら、また、それなりに運行本数も維持しながら、やれることを考えていきたい。また、二宮駅周辺の渋滞対策にも取り組んでいただきたい。特に雨の日には、駅前のマイカー送迎の車が多く、駅が見えていてもバスが進まないような状況であるため、バス利用者にとって大きな不満となっており、バス離れの一つの原因ともなっている。このあたりの問題も解消していきながら、路線バスのネットワークについても維持していききたいと考えている。

- タクシーとしては、UDタクシーの国からの補助を受けるためにも、この会議で承認していただきたい。市町村からの協調補助は頂けなくても、国からの運行補助をなんとか活用してUDタクシーを導入していききたいと考えている。また、秦野市のデマンドタクシーにもあるように、ご協力できることはやっていきたいと考えている。免許返納時にタクシー割引制度を導入しているところもあるようなので、行政の支援と合わせて協力できるところは協力してやっていきたい。

- ◎ バス事業者さんからもご意見があったとおり、道路事情がバスの定時制にも大きく影響するので、P7の③にも示されているような、交通結節点である駅の利便性向上等、公共交通の利用促進方策の検討も合わせて行っていくことが重要と思う。

- 利用者のニーズの把握のところにも関係してくると思うが、「百合が丘」や「緑が丘」は比較的路線バスが運行されている地域ということであった。通勤・通学で駅を利用する目的には対応しているが、それ以外の例えば買物や病院を利用目的とする人はどうするのか。

基本的には路線バスが十分活用できることが望ましいと思うが、買物利用のニーズを見ても、以前は団地中央で済まされていたものが、今では少し離れた中里周辺の商業施設に移ってきている。

バス停を増やしたり、路線を変えたりすることは労力や費用も掛かるので非常に難しいことと思うが、どこにどの程度の需要があるのかを把握しておかなければ、投資する必要があるか否かもわからないと思う。

例えば、買物や病院を利用目的としてコミュニティバスを活用する場合、東海大学大磯病院へのニーズはどのくらいがあるか等、アンケート結果から把握することは可能か。

- ◎ アンケートでは、駅以外の外出先でどこが多かったか等、把握できているか。
- よく利用する目的ということで、設問を設けている。病院というくくりであれば、それなりに多くの回答があるが、どこの病院かまでになると分散してしまっている。東海大学大磯病院と答えられている方も確かに複数人いたが、際立って多くいたという印象はない。
また、どこにバス停が欲しいかという設問もあるが、そこでは病院・医院と回答した方が最も多く、次いでスーパー、ショッピングセンターであった。ショッピングセンターについては、中里にあるショッピングセンターを回答された方が多かった印象がある。その他には、駅以外では生涯学習センターや町役場という回答が多かった。
- ◎ 今後、地区のニーズ把握をしていく上でも、このアンケート結果を最大限活用して、議論していきたい。
- よく利用する目的ということで、設問を設けている。病院というくくりであれば、それなりに多くの回答があるが、どこの病院かまでになると分散してしまっている。東海大学大磯病院と答えられている方も確かに複数人いたが、際立って多くいたという印象はない。

・事務局より財団法人市町村振興協会が主催する「市町村自治啓発セミナー」の案内

- 3月29日（木）の午後1時30分より、秦野市にて『みんなで支える地域公共交通』をテーマにしたセミナーが開催される。会場への送迎バスもあり、今後の検討にも役立つと思うので、詳細が決まり次第、改めて連絡する。参加を希望する場合には連絡いただきたい。

・事務局より次回の協議会開催日程を説明

- 本日のご意見を踏まえ、各地区における施策の詳細な検討に入る前に、まずは既存の公共交通での対応による方策を考え、どうしても対応しきれないところが生じた場合に、新たな公共交通を検討していきたいと考えている。次回の協議会までの間に公共交通事業者と相談させていただき、具体的な施策案を示していきたい。

なお、次回は4月26日（木）の午後2時からとする。

- ◎ 他に意見がなければ、本日の協議会は以上とする。